

守山企業景況調査報告書

(第25回)

平成27年10月～平成27年12月期 実績

平成28年1月～平成28年3月期 見通し

守山企業景況調査について

(平成 27 年 10 月～平成 27 年 12 月期)

1. 調査方法

守山商工会議所会員企業 71 社に対し調査票を配布し、回答を依頼した。記入済み調査票は商工会議所へ持参、郵送、Fax 等により回収した。

2. 調査企業

産業別	調査対象企業数	有効回答企業数	回収率
小売業	20	18	90.0%
製造業	13	12	92.3%
建設業	12	11	91.7%
サービス業	20	17	85.0%
卸売業	6	5	83.3%
合計	71	63	88.7%

3. 調査期間

調査期間は、実績を平成 27 年 10 月～平成 27 年 12 月、見通しを平成 28 年 1 月～平成 28 年 3 月とし、調査時点は平成 28 年 1 月 31 日とした。

4. 調査データについて

調査の結果を示す指標として DI 指数を採用した。DI 指数とは Diffusion Index (景気動向指数) の略で、各調査項目について、「増加」・「好転」したなどとする企業割合から「減少」・「悪化」したなどとする企業割合を差引いた数値である。

「業況」、「売上」、「採算(経常利益)」、「従業員」の DI 指数は前年同期との比較である。

「資金繰り」、「資金の借入れ難易度」の DI 指数は 3 カ月前との比較である。

「取引の問い合わせ」、「採算(経常利益)の水準」の DI 指数は過去との比較ではなく、調査時点での水準を聞いたものである。

調査の概要

平成 27 年 10 月～12 月期の守山企業景況調査の結果は、以下の通りである。調査結果は DI 指数（景気動向指数）を用いて示している。

DI は、「増加」「好転」等の企業割合から「減少」「悪化」等の企業割合を差引いた数値である。そのため、DI が±0 の状態であれば、「増加」「好転」等の企業割合と「減少」「悪化」等の企業割合が同じであることを示し、プラスの数値であれば「増加」「好転」等の企業割合が「減少」「悪化」等の企業割合よりも多いことを示す。逆に DI がマイナスの数値であれば、「増加」「好転」等の企業割合が「減少」「悪化」等の企業割合よりも少ないことになる。

また、グラフは右肩上がりになれば良い方向に向っていると判断でき、右肩下がりになれば良くない方向に進んでいると考えられる。

平成 27 年 10 月～12 月期の調査結果では、売上高、業況、採算、資金繰りの主要 4 指標全て前回調査より数値が低下した。

<業況>

業況 DI は▲14.3 で前回調査の▲13.8 から 0.5 ポイント低下した。業種別では、小売業 0.0（前回調査比+16.7）、製造業 8.3（前回調査比+8.3）、建設業 0.0（前回調査比▲10.0）、サービス業▲47.1（前回調査比▲8.2）、卸売業▲40.0（前回調査比▲40.0）と小売業、製造業が上昇した。

1 月～3 月期見通しは全体で▲30.0 であり、見通しは明るくない。

<売上高>

売上高 DI は▲25.4 で前回調査より 8.5 ポイント低下した。業種別では、小売業▲27.8（前回調査比▲4.7）、製造業 8.3（前回調査比+25.0）、建設業▲9.1（前回調査比▲19.1）、サービス業▲47.1（前回調査比▲19.3）、卸売業▲60.0（前回調査比▲43.3）であり、製造業の上昇とそれ以外の低下が目立つ。

1 月～3 月期見通しは全体で▲29.0 となっており、微減の様相である。

<採算（経常利益）>

採算（経常利益）DI は▲21.7 で前回調査より 5.9 ポイント低下した。業種別では、小売業▲22.2（前回調査比+16.3）、製造業▲18.2（前回調査比▲9.1）、建設業▲20.0（前回調査比▲31.1）、サービス業▲25.0（前回調査比▲2.8）、卸売業▲20.0（前回調査比▲20.0）で小売業だけが上昇している。

1 月～3 月期見通しは全体で▲21.7 であり、今回調査実績と同じ数値である。

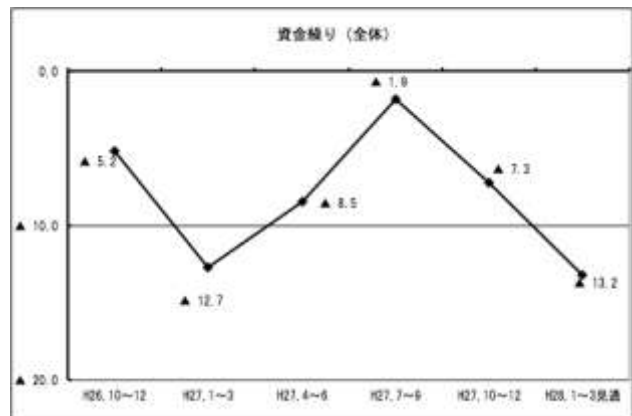
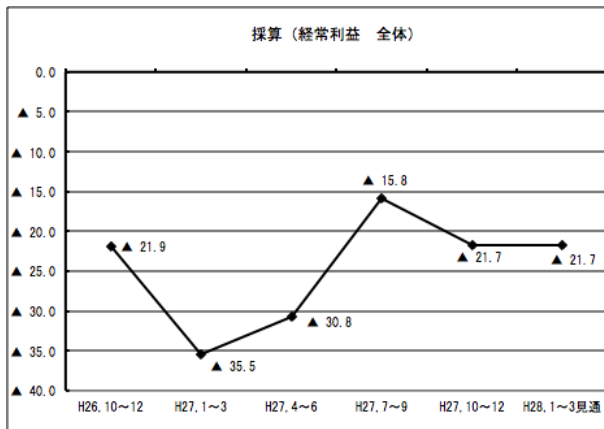
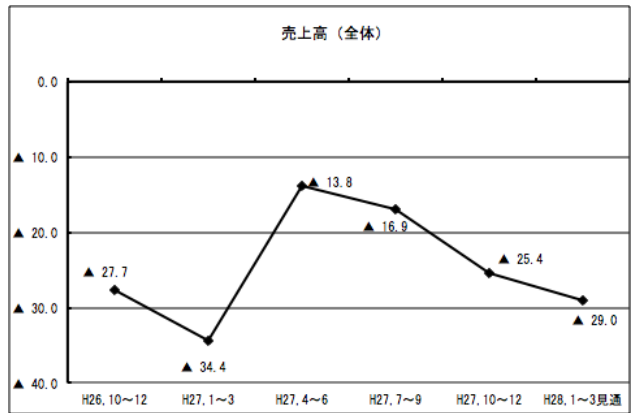
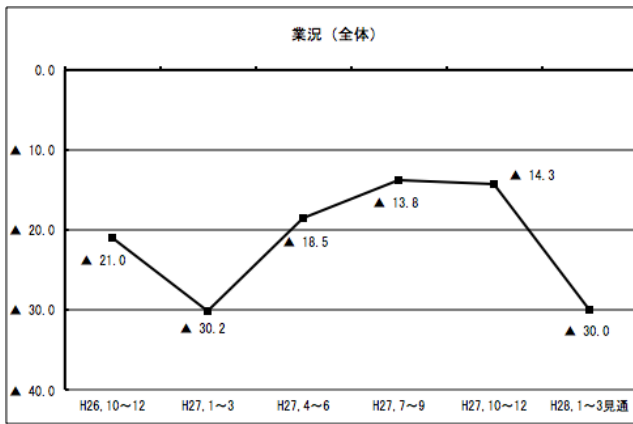
<資金繰り>

資金繰り DI は▲7.3 で前回調査より 5.4 ポイント低下した。業種別では小売業▲12.5（前回調査比▲4.2）、製造業 0.0（前回調査比▲10.0）、建設業▲20.0（前回調査比▲30.0）、サービス業 0.0（前回調査比+12.5）、卸売業 0.0（前回調査比±0.0）であった。

1 月～3 月期見通しは全体で▲13.2 であり、今回調査実績より 5.9 ポイント悪化となっている。

<その他の意見>

- ・ 求人を出しても採用ができず、採用できても短期で辞めてしまうので人材確保に苦戦している。



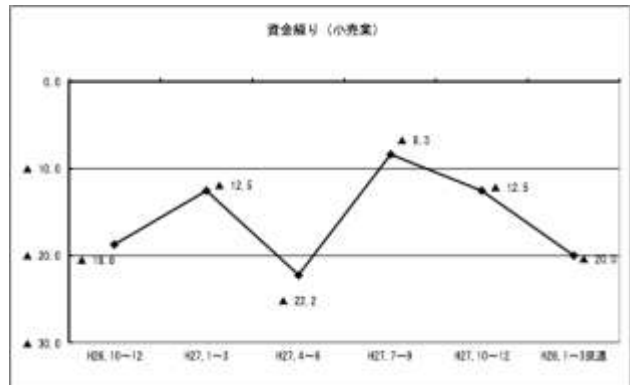
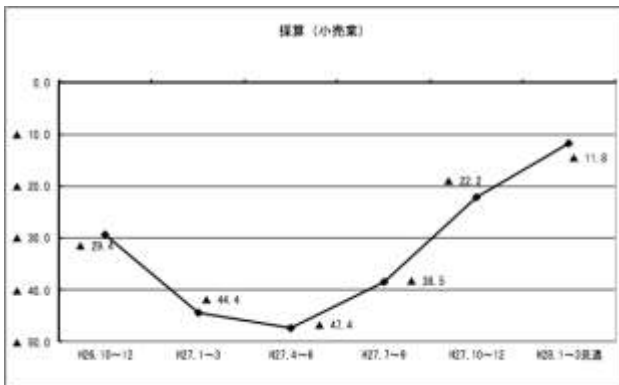
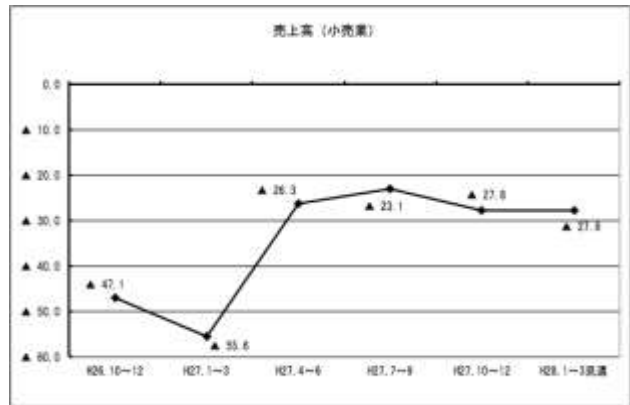
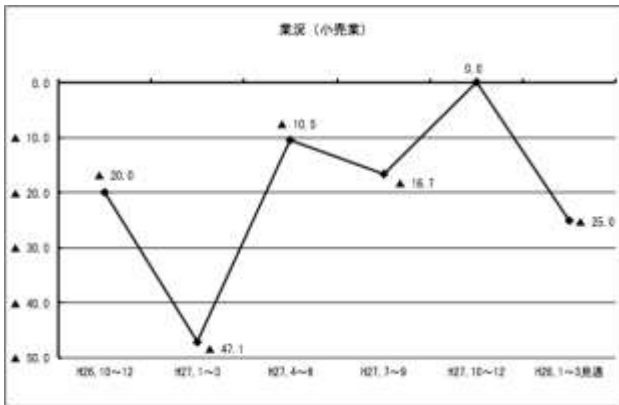
小売業

小売業の業況DIは0.0で前回調査より16.7ポイント上昇した。小売業の業況DIがマイナスでないのは、調査開始以来始めてのことである。これは、悪化と回答した数が減少したことによるものと思われ、かなりの改善があったと考えられる。しかし、1～3月期見通しは、▲25.0で弱気な結果になっている。

売上高DIは▲27.8で前回調査より4.7ポイント低下した。平成27年4～6月期以来同じような水準で安定的に推移している。業況の回復とは別の動きをしているが、このまま業況がプラスで推移すれば、売上高も数値を上げることになると期待される。1～3月期見通しは▲27.8で今回実績と同じであり、売上高の回復は少し先のようなものである。

採算DIは▲22.2で前回調査より16.3ポイント上昇している。大きな傾向として採算の数値はプラス側に上がっていったので、採算は良くなりつつあると考えられる。1～3月期見通しも▲11.8とさらに回復する見通しを示している。

資金繰りDIは▲12.5で前回調査より4.2ポイント低下した。しかし、過去から同じような数値を記録しており、資金繰り不安と言うことではなさそうである。1～3月期は▲20.0で今回実績より低下している。



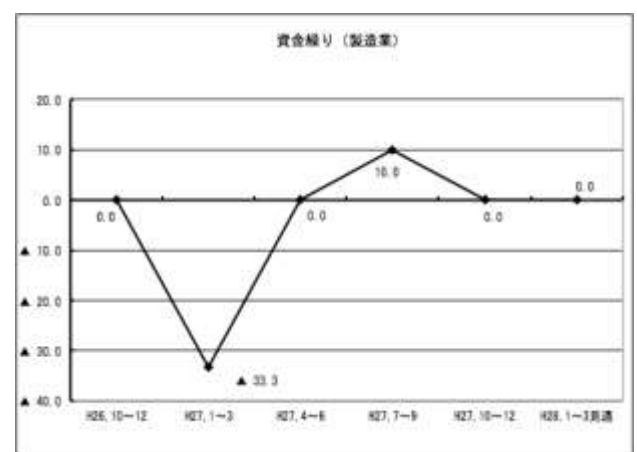
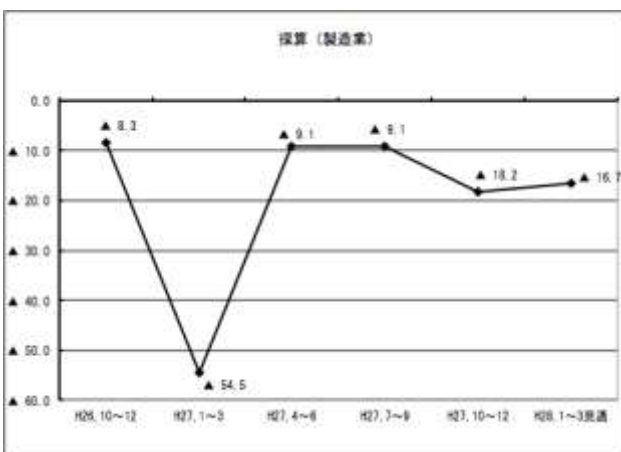
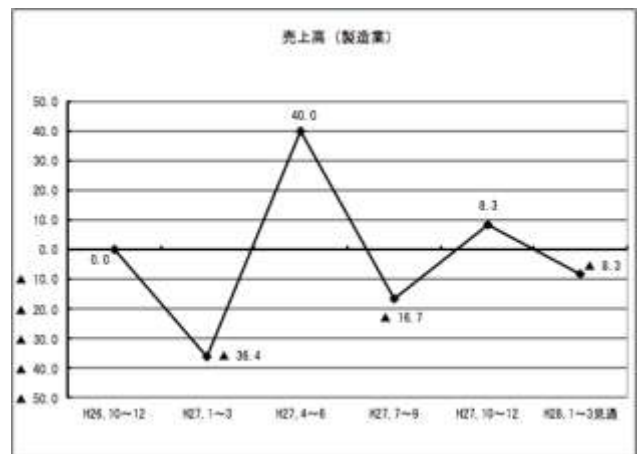
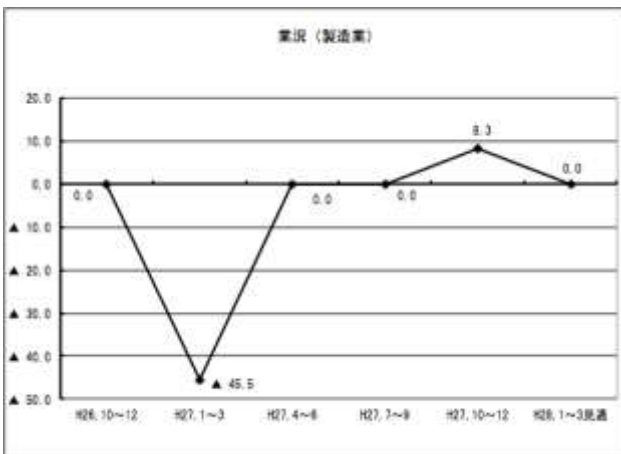
製造業

製造業の業況DIは8.3と前回調査に比べて8.3ポイント上昇した。製造業の業況は平成27年4～6月期から0.0、0.0と2四半期連続で0.0であったので、少し改善したと言える。しかし、1～3月期見通しが0.0となっていることを考えると、一種の誤差範囲内とも考えられる。

売上高DIは8.3と前回調査に比べて25.0ポイント上昇した。平成27年4～6月期の40.0ほどの数値ではないが、プラスに転じている意味は大きい。1～3月期見通しは▲8.3とマイナスであるが、過去1年間は上昇と低下を繰り返しており、通常の動きであるとも考えられる。

採算DIは▲18.2で前回調査と比べて▲9.1であった。平成27年4～6月期から同じような数値が続いており、1～3月期見通しも▲16.7とこの状態が予想されることから、少し悪い状態が続きそうである。

資金繰りDIは0.0と前回調査より10.0ポイント低下した。資金繰りも平成27年4月～6月期からは比較的安定しており今回調査も同様である。1～3月期見通しも0.0となっており、資金繰りは安定している。



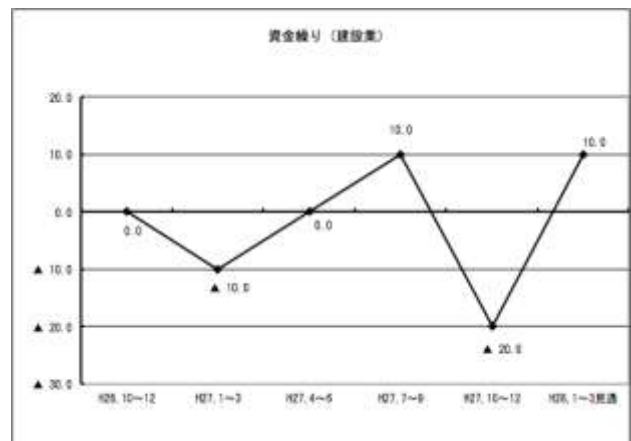
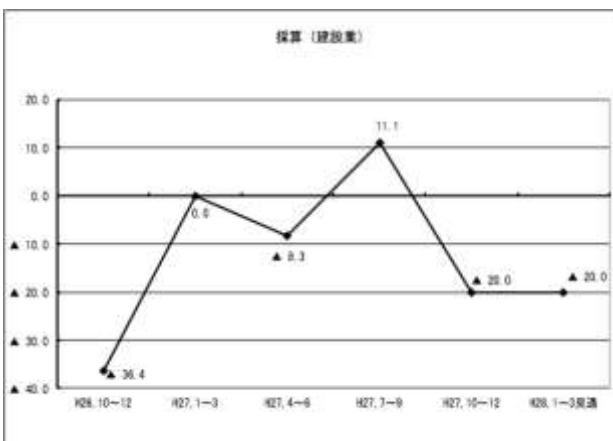
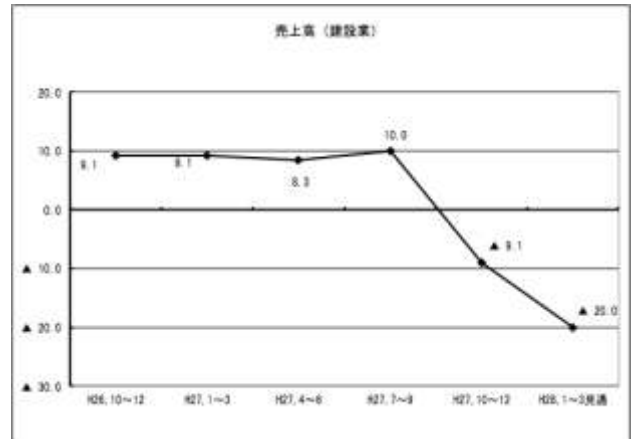
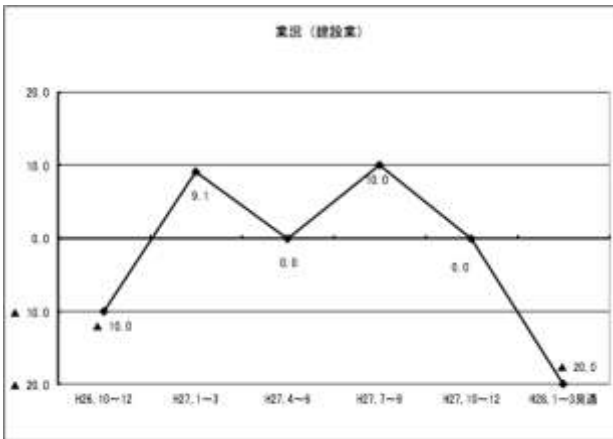
建設業

建設業の業況DIは0.0であり前回調査より10.0ポイント低下した。過去1年間は10.0～0.0の範囲で推移しており今回もその範囲内であった。しかし、1～3月期見通しは▲20.0でマイナスの幅が大きくなっており、少し業況が変わりつつあるのかも知れない。

売上高DIは▲9.1で前回調査より19.1ポイント低下した。長らくプラスの数値が続いてきたが、マイナスに振れてしまった。しかも、1～3月期も▲20.0とさらに低下しており、仕事量が明らかに減っているようである。

採算DIは▲20.0と前回調査より31.1ポイント低下した。1～3月期見通しも▲20.0で採算が悪くなってきてこの先も悪くなるという見通しであるので、建設業は冬の時期に入りつつあるのかも知れない。

資金繰りDIは▲20.0で前回調査より30.0ポイント低下した。建設業の資金繰りが▲20.0となるのはあまりないことなので、明らかに悪化していると見ることができる。しかし、1～3月期見通しは10.0と回復しているなので、この悪化は一時的なものとも見ることができる。



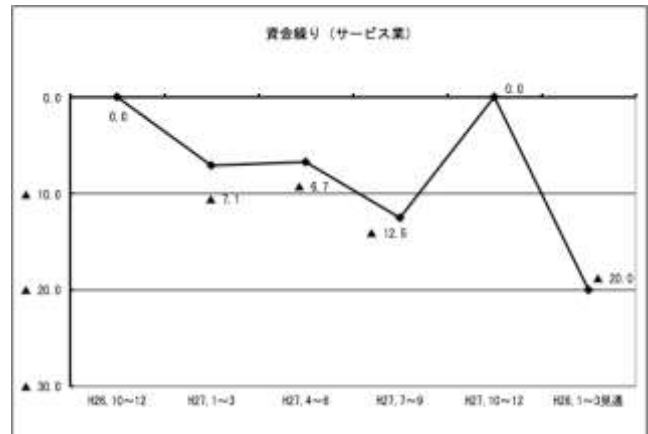
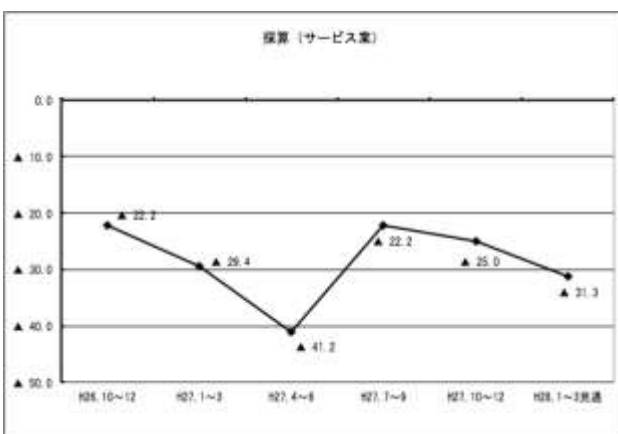
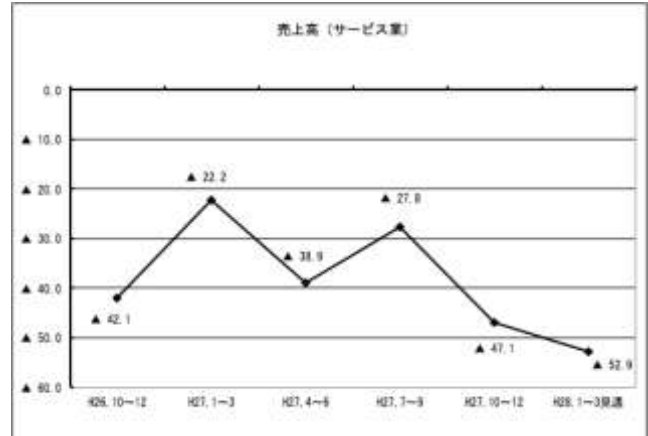
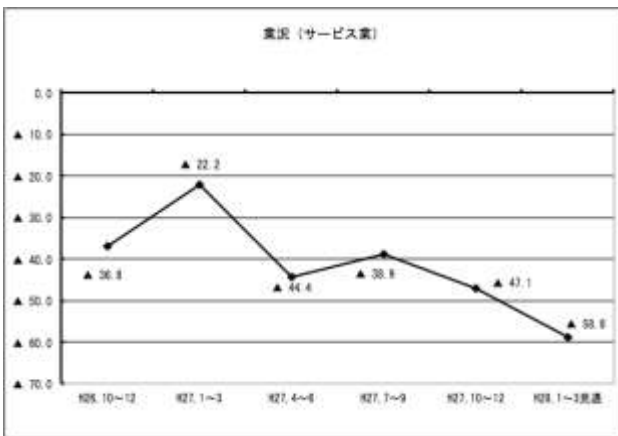
サービス業

サービス業の業況DIは▲47.1で前回調査より8.2ポイント低下した。前回調査では、少し数値が上昇したが、今回調査では低下している。サービス業は低迷傾向から脱出する気配を感じさせない。1～3月期見通しも▲58.8とさらに悪くなると予想されており、上昇の糸口すら見えてこない。

売上高DIは▲47.1で前回調査より19.3ポイント低下した。売上高も業況と同じく低迷傾向が続いている。1～3月期見通しでも▲52.9で厳しい結果であった。

採算DIは▲25.0で前回調査より2.8ポイント低下した。平成27年4～6月期が▲41.2で悪すぎたと見れば、最近の2四半期は安定していると言えるが、低迷傾向であることには変わらない。1～3月期見通しは▲31.3で徐々に悪くなっていくように見通されている。

資金繰りDIは0.0で前回調査より12.5ポイント上昇した。平成26年10～12月期以来のマイナス数値からの脱却である。業況、売上高、採算の3指標が低下している中で資金繰りだけが上昇しているのが、資金の流れと帳簿上の動きが少し違うのかも知れない。1～3月期は▲20.0で資金繰りの悪化が懸念されている。



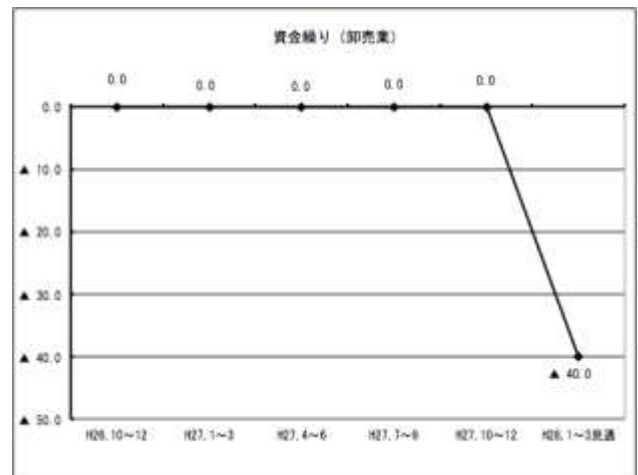
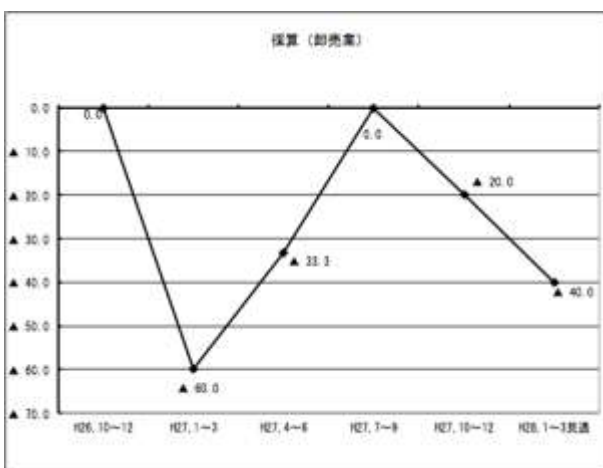
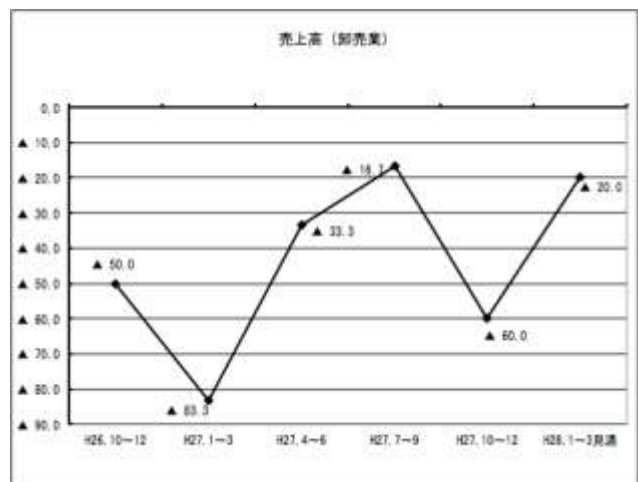
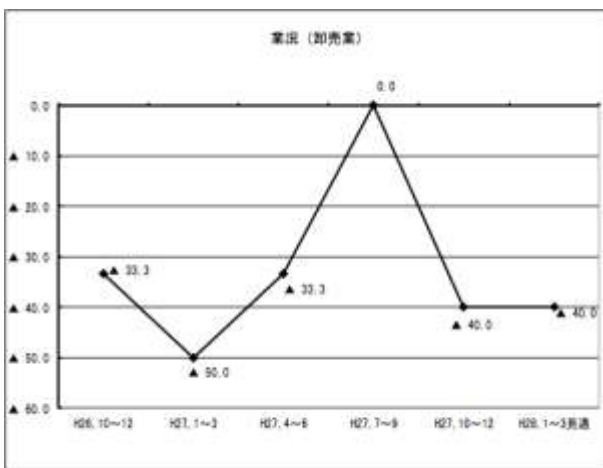
卸売業

卸売業の業況DIは▲40.0となり前回調査に比べて40.0ポイントの低下である。卸売業全体に言えることであるが、調査回答数が多くないので非常に大きく数値が変動してしまうので、今回の40.0ポイント低下も額面通りに評価することは難しい。しかし、1~3月期見通しも▲40.0であるので、業況が良いとは言えないようである。

売上高DIは▲60.0で前回調査より43.3ポイント低下した。売上高が良くなっているとは決して言えない。1~3月期見通しは▲20.0なので、今回の調査結果のように非常に悪いとまでは言えないと思われる。

採算DIは▲20.0と前回調査より20.0ポイント低下した。1~3月期見通しが▲40.0なので、悪化の傾向がみられるのかも知れない。

資金繰りDIは0.0で6四半期連続の0.0であった。その点を見れば資金繰りは安定しているものと考えられる。1~3月期見通しは▲40.0と大きくマイナス領域になっているので、この先の資金繰りには少し不安が出そうである。



DI 指数一覧表

	昨年の同期との比較					
	業況		売上高		採算（経常利益）	
	10月～12月期動向	1～3月期見通し	10月～12月期動向	1～3月期見通し	10月～12月期動向	1～3月期見通し
全体	▲ 14.3	▲ 30.0	▲ 25.4	▲ 29.0	▲ 21.7	▲ 21.7
小売業	0.0	▲ 25.0	▲ 27.8	▲ 27.8	▲ 22.2	▲ 11.8
製造業	8.3	0.0	8.3	▲ 8.3	▲ 18.2	▲ 16.7
建設業	0.0	▲ 20.0	▲ 9.1	▲ 20.0	▲ 20.0	▲ 20.0
サービス業	▲ 47.1	▲ 58.8	▲ 47.1	▲ 52.9	▲ 25.0	▲ 31.3
卸売業	▲ 40.0	▲ 40.0	▲ 60.0	▲ 20.0	▲ 20.0	▲ 40.0

	該当期について				昨年の同期との比較	
	採算（経常利益）水準		取引の問い合わせ		従業員	
	10月～12月期動向	1～3月期見通し	10月～12月期動向	1～3月期見通し	10月～12月期動向	1～3月期見通し
全体	21.0	14.5	▲ 25.4	▲ 24.1	▲ 1.7	▲ 3.4
小売業	5.6	5.6	▲ 18.8	▲ 18.8	▲ 26.7	▲ 26.7
製造業	50.0	41.7	0.0	0.0	25.0	25.0
建設業	36.4	18.2	▲ 36.4	▲ 9.1	9.1	10.0
サービス業	6.3	▲ 12.5	▲ 50.0	▲ 47.1	▲ 17.6	▲ 11.8
卸売業	20.0	60.0	0.0	20.0	40.0	0.0

	3カ月前との比較					
	資金繰り		長期借入れ難易度		短期借入れ難易度	
	10月～12月期動向	1～3月期見通し	10月～12月期動向	1～3月期見通し	10月～12月期動向	1～3月期見通し
全体	▲ 7.3	▲ 13.2	2.0	2.1	4.0	2.2
小売業	▲ 12.5	▲ 20.0	0.0	9.1	8.3	11.1
製造業	0.0	0.0	25.0	22.2	25.0	25.0
建設業	▲ 20.0	10.0	0.0	0.0	0.0	0.0
サービス業	0.0	▲ 20.0	▲ 6.7	▲ 7.1	▲ 6.7	▲ 7.1
卸売業	0.0	▲ 40.0	0.0	▲ 25.0	0.0	20.0

過去からの動向

